

児童の通学に役立てて

中泊ライオンズクラブが寄贈



中泊ライオンズクラブ(会長：加藤毅)は3月24日(月)に町教育委員会へ新1年生が通学時に使用できるようにと黄色い傘を寄贈しました。

鈴木教育長は「いつもご支援ありがとうございます。雨の日でも子どもたちが気持ちよく通学できます。」と感謝の言葉を伝えました。

新採用職員6名が採用になりました

令和7年度は新たに石田陽亮さん、松橋奈那さん、工藤さおりさん、藤森菜月さん、新岡巖さん、宗像萌子さんの中泊町職員として採用され、4月1日(火)、濱舘町長が辞令を交付しました。

今年度は一般行政職員3名のほか、保健師1名と学芸員1名、町史編さん室長1名の採用となり、特に学芸員は旧中里町時代から数えて36年ぶりの採用となりました。



小泊診療所の所長が新たに着任



令和7年3月31日付けで四ツ谷千尋さんが小泊診療所所長を退任し、新たに所長に着任した小成田衆さんが4月1日(火)、中泊町役場を訪れ、町長が辞令を交付しました。

小成田所長に対し町長は「小泊地域の町民の命を守るためにご尽力いただきたい。」と期待を述べました。

地域おこし協力隊に委嘱状を交付

観光コンテンツの掘り起こしやインバウンドの整備、町の情報発信などに取り組む「地域おこし協力隊」の委嘱状交付式が4月1日(火)に行われ、小枝美知子さん、伊藤友香さんが任命されました。

また、これまでも地域おこし協力隊として活動した山田隊員は今年度から、地域の実情を理解し重要プロジェクトを統括する「地域プロジェクトマネージャー」として活躍します。



「地域のために」

兼任集落支援員総勢33名を委嘱

町内会の役員などが集落支援員を兼任して地域の課題掘り起こしや解決に向けて活動する「兼任集落支援員」の令和7年度委嘱状交付式が4月2日(水)、パルナスで行われました。

今年度で3年目を迎える兼任集落支援員制度は新たに3地区が加わり、中里24地区、小泊9地区の計33地区に配置され、まだまだ拡がりをみせています。

町長は「人口減少が進むなかで地域の機能を維持するため、将来を見据えてともにがんばりましょう。」とお願いしました。



濱舘町長、三期目にむかう



任期満了に伴う中泊町長選挙で現職の濱舘町長が三期目の当選を果たしました。

4月10日(木)、当選後初めて登庁した町長を職員が出迎えました。

町長は「町の将来のため一緒にがんばりましょう。」と話しました。

三期目の任期は令和7年4月24日から令和11年4月23日までです。

AI翻訳機を試験導入

言葉の壁を超えて

AIが言語を自動翻訳し内容がリアルタイムでタブレット端末に表示されるAI翻訳機の実証実験を行うため、4月18日(金)役場窓口でデモンストレーションが行われました。

この日は実際に役場職員が日本語で、外国人指導助手(ALT)が英語で会話しタブレットに翻訳された文章を頼りに住民票の取得までを行いました。町長は「町には多くの外国人住民がいる。少しでも役場の手続きが容易になれば。」と期待していました。

翻訳機は94か国語に対応し、来年2月末まで実証のため役場本庁舎窓口に設置されます。



雨ニモマケズ風ニモマケズ

竜泊ラインをみんなで完歩!!

第23回竜泊ラインウォーキングが4月20日(日)に開催されました。今年は約170人の参加者が眺瞰台からスタートするAコース(12.5Km)と、坂本台からスタートするBコース(6.5Km)の2コースに分かれて健脚を披露しました。

この日はあいにくの天気でしたがAコースの参加者がスタートすると雨はやんで、強い風の中をどんどん進みます。七ツ滝では両コースともに足をとめて自然が作り出す雄大な景色を写真におさめていました。

また、ゴール地点の「ポイントマリ」ではメバル汁の振る舞いや抽選会も行われ、参加者は新鮮な海の幸など町の魅力が詰まったおもてなしを楽しんでいました。

